◎三浦半島久比里発↓観音崎沖

速潮エリアの激うまを釣る 観音崎沖のビシアジ順調！

フィッシングライター／粕川 晃 Akira Kasukawa

三浦半島久比里の巳之助丸といえば、泣く子も黙る？カワハギの老舗船宿だが、実は周年ビシアジ釣りでも出船している。

130号ビシでしか狙うことのできない、観音崎周りの速潮エリアの激うまアジを追いかけていて、昨今ショート船が多いご時世の中、一日船として頑張っている船宿でもある。

ワタクシ的にはおいしいアジをガッツリ釣りたいならここ！ という船宿であり、冷凍庫の干物の在庫が乏しくなった3月中旬、満を持しての釣行となった。

速潮もアタリは連発

とはいえ、このところ好釣続きで沖釣り界の優等生的な東京湾のアジも、3月4月は一年で最も厳しい季節。アジ船を担当する臼井功一船長にその辺りを聞くと、

「今年は水温が下がり切らず、ありがたいことにずっと釣れ続いてますよ。釣り場も深くならず水深60～70メートル辺りですから釣りやすいですしね。ただ今日から大潮だから潮が速いかも。その辺がどうなるかですね」と安心&懸念情報を教えてくれた。

当日は10人の釣り客を乗せて定刻の7時に河岸払い。いつもながらの元気なおかみさんたちに「いってらっしゃ～い！」と見送られて夫婦橋をくぐる。

ソヨソヨと北寄りの風が吹く中、観音崎の北側へと船を進め、しばし反応探しの後、「はいじゃあやってみましょう。タナは底から3～4メートル。潮が速いから仕掛けは途中で止めながら下ろしてください」で釣り開始。

まずはカメラを持って皆さんの釣りを見学。やはり潮は相当速いようで道糸はかなり斜めになってトモ側へ流れていく。これは厳しい釣りになるかなと思っていると、あにはからんや一投目からアタリが出たようで何人かが巻き上げを開始する。

25センチ弱のいわゆる中っぱだが、体高のあるうまそうな「観音のアジ」が左トモ、右の胴の間で釣れ上がった。

アタリは船中全体に広がり、あちらこちらでアジが上がり出す。ただ潮が速いため中には「タナがよくつかめない」と苦戦する方も。またやはり潮下であるトモ側が有利なようで、アタリの出方も他席に比べ早いように感じられた。

そんな中、潮上にもかかわらず安定して釣っているのが右舷ミヨシの日比野さん。日比野さんは巳之助丸アジ船の竿頭の常連。

「上潮は速いけど底潮はそれほどでもないようで、アジが船下に着いてくれているみたいですね」と一荷を交えいいペースで釣っている。タナは4～5メートルと高めを狙っているようだ。

アタリ連発で撮影も順調に進み、9時前からは私も竿を出す。巳之助丸では付けエサにアカタンとアオイソメが配られるので、3本バリの真ん中にアカタン、上下のハリにアオイソメを刺した。

ビシを振り子投げで潮上前方に投入。サミングしながら仕掛けを落とし込んでいき、途中40メートルと60メートルでは一度落下を止め、3秒ほど待ってから再度落とし込む。

それでも道糸は75メートル出て着底。水深は65メートルとのことだから、10メートルは余分に出ていることになる。

着底後は糸フケを取り、2メートル巻いてコマセをひと振りふた振り、1メートル巻いてもうひと振りし竿をロッドキーパーに掛ける。

コマセを振った位置からキーパーに掛けるのに50センチくらい持ち上げるから3.5メートルのタナを釣っているイメージだ。

竿頭の釣り方は

一投目こそ空振ったが、次からは連チャンモードに突入。次つぎに中っぱのアジを抜き上げていく。気分は悪かろうはずもないのだが、食ってくるのは上バリと下バリばかり。真ん中のアカタンには食ってこない不思議。

今日はアオイソの日？ と全部のハリをアオイソメにしてみる。それともう一つ、アタリが小さくなんかモヤッとしていて小気味よさがない。釣れているのだから文句も言えないのだが、付けていたクッションゴムを外してみる。

すると真ん中のハリにも食ってきて、一荷率も高くなった（しばらくしてアカタンに戻すと、それにも食ってきたから一時的なもの？ 気のせいだったかも）。

そしてアタリもककककン！ とアジらしい鋭さが戻って、これこれ！ と狙い的中に気分も上々だ。

10時半ごろには速潮もだいぶ落ち着き食いっぷりは一段とヒートアップ。まさにちぎっては投げの入れ食い状態となるが、好事魔多しでこの後に北東風が吹き出して釣りづらくなった。

そして11時過ぎに上げ潮に変わると食いが落ちてくる。ここまでアタリなく巻いたことは2～3回だったのだが、この後は空巻きも多くなってきた。

12時、この日初めての場所移動。観音崎方向にやや南下した場所では2ビシ目から食い出すが、前半戦のようなペースでは釣れない。13時に再移動するも同様で、この日はそのまま沖揚がりとなった。

後半尻すぼみになったとはいえ一人30～102尾は爆釣といってもいい釣果だった。トップは日比野さん。次頭はこれまた常連の遠藤さんで69尾だから、ダントツの竿頭だった。

この日の日比野さんの釣り方は、タナは4～5メートルと高め、コマセは狭い幅で軽めに振り、振った後はその位置でアタリを待っていた。

「潮がそこそこいっていたので、コマセも仕掛けも横にたなびいていると思うんですよね。なのでコマセを振ってその位置で待つようにしていました」とのこと。

潮が流れないときには縦を意識した釣りをするが、そのときでもコマセは一カ所に集中してまくようにしているとのこと。

「狭いタナに集中して濃いコマセの帯を作ることでアタリが早く出ますから。タナが高めなのは、その群れの中でも型のいいのを狙うため」とも教えてくれた。

3月は味のほうでも一番厳しい季節。脂の乗りも落ちてくるのだが、

「確かに全盛期ほどじゃないけど、ここのアジは一年を通して脂が乗っていますよ。あとエサがいいのかな？ 身に甘さがあってうまいですね」と功一船長。

おっしゃるとおりで帰宅後はタタキにアジフライと絶品の「観音アジ」を堪能した。

「雪解けの水が入ると一時的に食い渋るかも？」とは船長だが、このまま一気に春アジ真っ盛りといきそうな観音崎沖のアジ釣りだった。

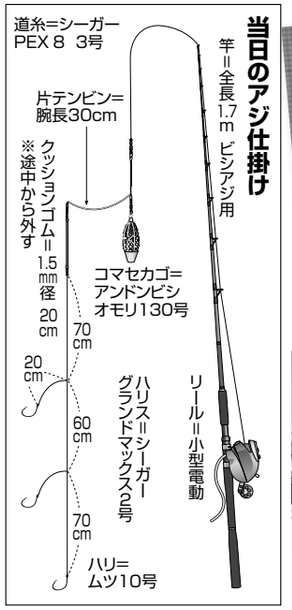
▲三浦半島のビシアジは春になっても期待十分

▼日比野さんは高めのタナで釣っていた

•Tackle Guide

アジ釣り用のハリスはある程度パリッとした張りのあるタイプが使いやすい。手前マツリしづらいし、多少クセが付いても強く引っ張りしごくことで直りやすくもあるからだ。また同エリアではこれからの時期、クロダイやマダイなどが食ってくることもあるので、アジ釣りとはいえハイスペックハリスを使用しておくに越したことはない。

当日のアジ仕掛け



▼昼までは潮回りすることなく釣れ続いた

▶一日船とはいえ1束超えはすごい

知っ得！ Tips and Tricks ハリ先のチェックは必須

▼アジ釣りでもハリ先の鋭さは必要

アジ釣りでは意外とハリ先のチェックを怠りがちだ。アタリがあってもハリ掛かりが悪いとか、底バレや巻き上げ途中のバラシが多いなと感じたらハリ先のチェックを。口がそう硬くはないアジだが、数を釣っていればハリ先が鈍ることもあるのだ。チェック方法は親指の爪にハリ先を立てて刺さり込むようならOK、引っ掛からずに滑るようならNGだ。

◉船宿information

三浦半島久比里
巳之助丸
☎046・841・1089
（詳細は巻末の情報欄参照）

臼井 功一船長

▶料金＝アジ乗合一人9200円（コマセ、アカタン、アオイソメ、氷付き）
▶備考＝予約乗合、7時出船。別船はカワハギなどへ

●かすかわ あきら／防寒着を手放せるのももうじきかな。着ぶくれ縮こまりが原因？の釣行後肩こりから早く解放されたいものだ。